



小郡市立小郡中学校

令和7年2月3日

小郡中学校だより 第228号

校長 船津 聡 哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

早いもので、2月になりました。2月は「如月」とも呼ばれています。なかなか漢字からは意味を想像しづらいかもかもしれませんが、由来としては、まだまだ寒さが厳しい時期のため、更に衣を重ね着するということから「衣更着(きさらぎ)」と呼ばれるようになり、漢字は中国の2月の異名「如月」の字が使われたと言われています。(他にもいろいろ由来があるようです)まだまだ寒さが続きそうなので、体調管理には十分に注意していただきたいと思っています。



さて、3年生は高校入試の真っ最中。「努力の後に、喜びや楽しさは必ずやってくる！」…進路決定に向けて最大限の努力を続けてください。また、1,2年生はこれまでの学習や生活を顧みて不足を補う努力をするなど、次の学年に向けての準備をすすめてください。

〈ピンチはチャンス〉…諦めない、最後の最後まで絶対に諦めない！

マッチを知っていますか。昔は、風呂や米を炊くときに薪に火をつけたり、明かりをとすためにろうそくに火をつけたりと必要なものでした。ところが最近、マッチを使うことがほとんどなく、日本のマッチ工場は激減しているのです。…そこで問題です。



「あるアイデアで、廃業となる寸前のマッチ工場が救われました。それはマッチとあるものをコラボすることに成功したからです。そのコラボしたものは何でしょう」

答えは、「線香」です。マッチの軸である木の部分を線香にするには、かなり苦労したそうです。折れないように硬くすれば火がすぐに消え、柔らかくすればすぐに折れる…。紙繊維を入れながら試行錯誤の末に、完成したのです。そのマッチ線香は「おしゃれた」と大人気で、マッチが発明されたフランスを中心にマッチ線香が大ブレイクしました。今では、世界中に年間20万個を輸出するマッチ線香が広まっているそうです。ひと箱30円程度のマッチが、マッチ線香ならひと箱約1,000円で販売され、約30倍の値段になったそうです。

また、スマートフォンのLINEアプリを使っている人は多いと思います。そのLINEも今年の3月11日で発災から14年を迎える東日本大震災がきっかけで考えられたそうです。東日本大震災発生時に、大切な人と連絡が取りづらかった経験から、「こういう時にこそ大切な人と連絡を取ることができるサービスが必要だ」という思いのもと、つながるコミュニケーションアプリとして2011年6月に誕生しました。あの「既読」表示は、震災を経験して、安否確認のためがあると便利だということで付けられた機能なのです。さらに生徒のみなさんが使っているタブレットも、新型コロナウイルス感染症に苦しめられた時期がなければ、ここまで普及していなかったのではないのでしょうか。

今号で伝えたいことは、「ピンチはチャンス」だということ…。生活の中では、必ずピンチはやってきます。そのピンチを「チャンス」だと捉える発想の転換が大切だということです。



【裏面に続く】

そして、そのピンチを乗り越えるために「どういう方法を取ればいいのか」を考えてほしいのです。また、「プラスの言葉を発する。決してマイナスの言葉は発しない」ということや悩んでいる人には、「大丈夫、がんばっていることは知っているよ」「私にできることがあったら言ってね」とプラスの言葉をまず発してほしいのです。

ピンチの時こそ、諦めない、最後の最後まで絶対に諦めないでほしいのです。

## 筑後地区中学校新人駅伝競走大会 健闘しました！

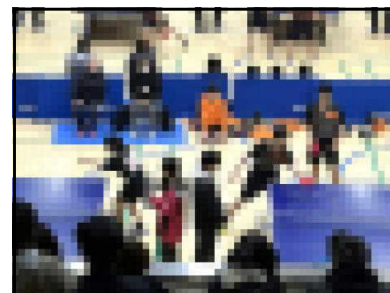
1月16日(木)に大牟田市諏訪公園周回コースにて、筑後地区中学校新人駅伝競走大会が開催されました。女子は26位(32チーム参加)、男子は10位(38チーム参加)という結果でした。朝練習を中心に力をつけた駅伝部のみなさんのがんばりはすばらしく、しっかりと襷をつないでくれ、最後まで健闘してくれました。駅伝部のみなさん、本当によくがんばりました。



【筑後地区新人駅伝競走大会にて】

## 本校生徒の活躍の紹介…福岡県中学校新人卓球大会[結果]

1月11日(土)に福岡市民体育館で福岡県中学校新人卓球大会が開催され、男子卓球部が出場しました。3チームによる予選リーグでは熱戦を制し、見事、決勝トーナメント進出。決勝トーナメントでも接戦を繰り広げましたが、惜しくも敗退という結果でした。すべての試合を観戦させてもらいましたが、選手のみならずの躍動する姿からはたくましさを感じました。夏の大会ではさらなる成長と活躍を期待しています。



【福岡県中学校新人卓球大会】

## がんばれ3年生…いつもと変わらぬリズムで試験に臨もう！

明日は筑後地区私立高校の一般(前期)入試日です

現在、昼休みと放課後は3年生の高校入試に向けての面接練習を行っています。練習といえども緊張感をもって臨んでくれているのですが、「失敗したくない」という思いや緊張の余り受け答えがうまく進まない生徒さんもいます。ただ、



適度な緊張感はよい結果につながるというデータもありますし、しっかり準備をして本番に臨んでほしいと思っています。このように3年生のみなさんの心には不安や緊張感があることでしょう。それを乗り越えるためには、いつもと変わらぬ生活をする、いつもと同じリズムで普段どおりに試験に臨むことが大切になります。もし、生活リズムが狂っていると思ったら早めに軌道修正をしてください。試験前日、当日もいつもと同じ「早寝、早起き、朝ご飯」…いつもと同じように「おはよう」と起き、「行ってきます」と玄関を出しましょう。いつものみなさんなら入試もいつもどおりの力で乗り越えられるはずですよ。

よく「平常心で臨もう」と言われますが、語源を調べてみると「平常心」は、何事にも動じない心を表していたわけではないようです。不安も緊張も弱さも含めて、ありのままの自分に気づき、自分を知り、自分を素直に受け入れる心を表していたのだそうです。自分を知って素直に受け入れてこそ、自分の力を発揮できるのではないのでしょうか。不安も緊張も当然です。慌てる必要はありません。いつもと同じリズムで入試に臨めばいいのです。がんばれ3年生！



小郡市立小郡中学校

令和7年2月17日

小郡中学校だより 第229号

校長 船津 聡 哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

## 『無言清掃』…何を意識してとりくんでいますか？



二十四節気では、2月3日が「立春」でした。また、「雨水」は季節の目安となる二十四節気の2番目の節気で、寒さが次第にゆるみ、降る雪が雨に変わる頃のことを言い、今年の「雨水」は2月18日～3月4日だそうです。昔から春の耕作を始める目安ともされており、寒さも峠を越え、衰退し始める時期なのですが、まだまだ寒さが続きそうです。ぜひ、体調管理には十分に注意していただきたいと思っています。

さて、そんな寒さの中、生徒のみなさんは冷たい水で雑巾を濯ぎ、清掃をしてれています。清掃…。みなさんの清掃をしている姿をみると、清掃を「面倒な義務」と捉えているような気がします。今こそ、清掃をする意味を確認してもらいたいと思っています。実は、清掃には生活の質を大きく向上させる力が秘められています。清掃をすることによって、空間が整うだけでなく、心も整うのです。清掃は単なる物理的な行為ではなく、精神的な影響を強く受ける行動なのです。清掃を習慣化することは、結果的に自分自身のパフォーマンスや幸福度を高める大きなステップになるということです。

そのようなことを踏まえ、小郡中学校では平成30(2018)年から『無言清掃』が始まりました。その当時の生徒会議案書には『無言清掃』の目的2つと身につけたい4つの心が記載されています。



目的2つ…「心を磨き心地よい環境づくり」と「連帯感を高め仲間づくりを進める」  
身につけたい4つの心…「がまんする心」「思いやる心」「気づきの心」「感謝する心」

この目的2つと身につけたい4つの心は、この『無言清掃』をとりくむ上で大切にしたいことであり、その時の生徒総会では『無言清掃』の実演をするなど、小郡中学校の伝統にしていきたいという熱い気持ちを伝えてくれたのを覚えています。それから7年…『無言清掃』は小郡中学校の伝統になっているのでしょうか。



生徒総会での『無言清掃』の実演  
〈平成30年4月〉

再度、生徒のみなさんには『無言清掃』の意義を確認してもらいたいのです。

特に、生徒のみなさんの清掃にとりくむ姿をみて、「がまんする心」と「気づきの心」をもっと意識してもらいたいと思っています。「がまん」とは、自分の置かれている状況を一歩下がって冷静に眺め、総合的に考えるということです。さらに言えば、「自分自身の中で対話する」という「自己内対話」により、人間は初めて理性的になり、総合的な判断ができるようになるのです。

〈裏面に続く〉

また、「気づく清掃」とは、いったい何に気づくことなのでしょう。清掃箇所をよく観察していると、汚れている場所は決して一様でなく、様々だということがわかります。「気づく清掃」は、まず汚れている場所を自分でみつけることから始めます。次にそこをきれいにするにはどんな道具を使えばよいのかを、自分で考えます。たとえば、トイレならば、汚れを落とすにはモップがよいのか、雑巾がよいのかなどです。さらに、どのように分担したら効率よく、よりきれいになるのかを一人ひとりがよく考え、みんなで協力して活動します。このように「気づく清掃」とは、自分の頭で考え、行動する力を身につける清掃のことです。「自ら考え、行動する力」を育てるために「気づき」は大切なのです。

本年度も生徒会では「気づく清掃」を掲げていますが、『無言清掃』が中途半端なとりくみにならないように、目的2つと身につけたい4つの心を再確認し、小郡中学校生徒会のよき伝統にしてほしいと願っています。

## 人権フォーラム開催！…小学6年生と本校1年生が交流しました

2月13日(木)に小郡小学校6年生を招いての「人権フォーラム」を行いました。入学説明会や交流会、部活動紹介に生徒会執行部を中心とした1、2年生が関わることで、小学6年生に中学校生活への夢や期待を膨らませる機会としています。また、このとりくみは、「中1ギャップ」が課題になり始めた平成11年度から実施しており、本校1年生と小学6年生が交流を深める場は、小学6年生の中学校への不安を少なくしたり、疑問を解決していくことが大きな目的です。本校1年生も1年前を思い出したことで…6年生の質問にも真剣にアドバイスしている姿があり、「先輩」になるという気持ちも強くなったのではないのでしょうか。12名のフォーラムコーディネーターのみなさまにもお世話になりました。ありがとうございました。



人権フォーラムの様子



## 九州アンサンブルコンテストで金賞を受賞！

2月8日(土)に宮崎市民文化ホールで九州アンサンブルコンテストが開催され、クラリネット三重奏で、さんが、さんが出場しました。緊張もあったと思いますが、堂々とした演奏を披露し、見事金賞を受賞しました。このコンクールに向けて本当によく練習する姿があり、その努力が結果につながったことをうれしく思います。金賞受賞、おめでとう！



九州アンサンブルコンテスト 金賞!

## 『恩送り』でつながり、小郡中学校を素敵な学校に

毎年この時期になると「恩送り」という言葉を思い出します。「恩返し」は、恩を受けた相手に直接恩を返すことを意味していますが、「恩送り」とは、受けた恩を直接その人に返すのではなく別の人に受け渡していくこと…いわば「恩のバトンリレー」です。ぜひ、受けた恩を自分で止めずに、たくさんの人へ広げてほしいと思っています。一人ひとりが、この「恩送り」を意識し実行していったら、小郡中学校はもっと素敵な学校になっていくと思います。

